

高崎工業高校についてのQ & A

■高工の特徴に関すること

Q 1	高崎工業高校の特徴を教えてください。
A 1	○ 高崎工業高校は「日本一の工業高校」を目指しています。ものづくり大会での活躍や、資格試験での成果、進学実績の向上、公務員指導の充実など、様々な面での更なる向上を目指しています。 ○ ものづくり等を通して、これまで小学校・中学校では気付かなかった自分の才能を見いだすことができます。皆さんには素晴らしい才能が秘められていると思います。 ○ 産業社会と直接繋がった学習ができるところに特徴が有り、価値があることだと思います。 ○ 全ての学科において、企業で活躍する専門的な技術者や熟練技能者を招いての授業や講義を行っています。 ○ 情報技術科と工業化学科では大学とも積極的に連携しています。 ○ 情報技術科では本年度より3年間、群馬県教育委員会の指定を受け「時代を担う職業人材育成事業」を実施します。企業や大学と一層連携した教育を推進します。 ○ 資格指導にも積極的に取り組んで成果をあげています。 ○ 県内の高等学校から大学進学で流出した約六千人の内、約二千人しか群馬県に戻らない状況であり、県内の産業を支えているのは工業高校卒業生の力が大きいとされています。高崎工業高校の卒業生もその一端を担っています。 ○ 充実した設備が整っています。工業の基礎・基本と共に先端技術を学ぶことができます。 ○ 全員給食制を実施しているのは公立高校では「高工」だけです。

■学習に関すること

Q 2	工業高校と普通高校の学習内容の違いは何ですか？
A 2	○ 普通高校の学習は進学指導が中心となりますので、国、数、英、社、理の5教科の授業が中心となります。 ○ それに対して、本校では工業技術基礎や実習、製図の授業などの専門科目を1週間に9時間から16時間（学年により異なる）学びます。 ○ 専門科目を学ぶ分、5教科の授業時間数は少なくなりますが、専門的な技術者になるための知識・技術・技能を身に付けることができますので、将来の自らの進路実現には大きな力となります。

Q 3	学科を選択する視点を教えてください。
A 3	○ 高校卒業後の自分の進みたい進路を見定めて学科を選ぶことが理想です。将来の自分が就きたい職業を考えてから学科の選択をすると良いでしょう。 ○ しかしながら、なかなか中学を卒業する段階で将来就く仕事まで決めてから学科を選ぶことは難しいかもしれません。自分が興味を持って学びたいと思える学科を選ぶのが多くの生徒の姿です。

■進路に関すること

Q 4	高崎工業高校の就職先にはどのような就職先がありますか。
A 4	○ 過去3年間の進路先は「学校案内」や「ホームページ」をご覧ください。 ○ 創立81年を誇る歴史有る工業高校であり、卒業生が各方面で大変活躍しているため、各企業からの評価が高く、是非高工生を採用したいという企業の声を数多くいただいています。 ○ 本校の生徒は優良企業に採用されており、地域の産業界を支える人材を育てているという自負を持っています。 ○ 令和元年度卒業生の内、約200名が就職希望でしたが、県内外からの求人数は約2100名でしたので、約10倍の求人をいただいています。 ○ ずっと就職率100%を維持しています。就職に強いのは工業高校として当たり前のことであり、これまで培ってきた企業との信頼がありますので安心してください。 ○ 公務員試験にもチャレンジする生徒がいます。令和元年度卒業生は9名（現役）が合格しています。高工生の資質・能力であれば更に多くの生徒が合格できると思っており、学校としてもその指導に力を入れています。

Q 5	公務員試験に向けてどのような指導をしてもらえますか。
A 5	○ 1学年から専門学校と連携したガイダンスや無料の講習会を本校にて定期的に実施しています。生徒によっては、更に専門学校で実施する講習会にも参加（無料の講習会あり）しています。 ○ 卒業時に合格しない場合は専門学校に進学し、合格を勝ち取る生徒もいます。 ○ 一般職や警察官、消防士になる生徒もいますが、土木科の生徒のように、その専門性を活かした職種で合格している生徒もいます。

Q 6	工業高校に進学すると大学等への進学は可能でしょうか。
A 6	○ 大学等の受験は大きく分けると①から⑤で行われます。本校の生徒は高校時代の学業成績やその他の活動での実績をもとに①から④で進学をしています。 ①指 定 校 推 薦：大学等が指定した高校だけから推薦できる入試です。示された基準と高校の推薦基準を満たした生徒を選考し、学校長が推薦で出願します。 ②公 募 推 薦：どの高校からも推薦基準を満たしていれば出願できる入試です。高校での実績、学力が評価されます。 ③専門高校枠推薦：工業高校などの実業高校生を対象に推薦枠を設けた制度で、普通高校の生徒と競わなくて良いので入学しやすくなっています。国公立の大学でも設けていることがあります。 ④総合型選抜（旧ＡＯ入試）：大学が示す出願条件を満たせば誰でも応募できる「自己推薦制」の色の強い入試です ⑤一 般 選 抜：一般的な学力試験入試や大学入学共通テストを利用した試験です。 ○ 学校案内やホームページで本校の進学状況を見ると就職者の割合が多いため、工業高校へ進学すると就職しかできないイメージを持ちますが、実際には多くの大学等から指定校として認められており進学できます。（指定校数 ４年制大学：約 80 校、短大：約 20 校） ○ しかしながら、県内の優良企業からの求人が多く、そのような企業には大学進学後では就職しづらいことから、就職を選択する生徒が多い状況です。高工生の実力からすれば進学を希望すれば充分進学ができる状況です。指定校も数多く空きがある状況です。

Q 7	国公立大学への進学は難しいでしょうか。
A 7	○ 難しいか、難しくないかという、難しいと答えるしか有りませんが、普通高校で同大学に受験し進学することと比較すると、難しくはないという答えになります。 ○ 国公立大学の多くは、枠は少ないものの工業高校生を受け入れる体制があります。入学当初から目的意識をしっかりと持ち、専門科目にも積極的に取り組み高工生の実力からすると進学することは十分可能ですし、実際に進学している生徒も数多くいます。もっと多くの高工生がチャレンジしてくれることを期待しています。

Q 8	高校卒業後の進路として、所属した学科の専門以外の進路に進むことはできますか。
A 8	○ 学んだ専門性を活かした進路に進むのが理想ですし、そうする生徒が多いのも事実です。しかしながら、工業高校を卒業したからといって、その後の進路が制約されるものではなく、様々な進路を選択することは可能です。 ○ 企業によっては学科を指定して求人される場合と、学科の指定なしに求人される場合があります。指定なしの求人も非常に多く、就職してから本人の適性を見て適材・適所に配

	属されるようです。
--	-----------

Q 9	どのような資格が取得できますか。
A 9	○ それぞれの学科によって取り組んでいる資格試験が異なります。「学校案内」や「ホームページ」で紹介していますのでご覧ください。 ○ 資格取得は工業高校の特色の一つです。就職後に直接役立つ国家試験を中心として指導しています。令和元年度は特に電気科2年生全員が「第二種電気工事士」に、工業化学科2年生全員が「危険物乙種第四類」に合格するなど素晴らしい成果をあげています。その他の学科においても難易度の高い資格試験に積極的に取り組み成果をあげています。

■部活動に関すること

Q 10	女子生徒が活動できる部活動はありますか。
A 10	○ 運動部：ダンス部、空手部、バドミントン部、卓球部、陸上部、アイスホッケー部、女子バレーボール同好会などがあります。 ○ 文化部：全ての部活動が参加可能ですが、吹奏楽部、書道部、写真部、J R C、軽音楽部等があります。 ○ 研究部：各学科には、ものづくり等を通して専門的技術・技能を身に付ける部活動があります。